

柱	班	事業（仮名）	事業概要	別紙
柱 1 地域の特性を守り活かし、活気あふれるまちづくり （農業・林業・自然環境）	1 班	香嵐溪目標事業	個人の山で木を植えることが難しい現状を踏まえ、過去に整備されていた旧菅守小学校の裏山やイモリ山を活用して、10 年から 20 年をかけて木の伐採を進めつつ、紅葉やクヌギ、桜を植樹することで、四季折々の美しい景観を目指す。北部には鳴沢の滝もあり美しい景観を活用することで観光客を呼び込み地域活性につなげる。	
		旧菅守小学校校舎、イモリ山活用事業	旧菅守小学校の校舎を活用して宿泊施設を整備することで、裏山やイモリ山の観光を楽しむ利用者が宿泊できる環境を整え、地域に新たな雇用を生み出すことができるのではないだろうか。またイモリ山をキャンプ場として活用することも検討できるのではないか。	
	2 班	地域の財産を活かせ、古宮城整備事業	全国から古宮城を目的に訪れる観光客は多いものの、観光できる整備が十分には行われていない状況である。そのため、適切な整備を進めることで観光客の満足度を向上させるとともに、さらに多くの観光客を誘致することが期待されるのではないか。	
		地域の財産を活かせ、遊歩道整備事業	作手地区では、多くの観光客が城跡や城跡を結ぶ遊歩道を利用して訪れています。その魅力をさらに向上させるために、整備の充実が必要です。具体的には、文殊山展望台の整備や遊歩道の改善を進めることを提案します。	
		国道301号沿いの伐採、植林事業	村外から訪れる人々にとって、国道 301 号線は主要な幹線道路です。しかし現在、道路両端の木の枝が道路上に覆いかぶさり、整備が行き届いていない状況にあります。冬季には路面が凍結し、非常に危険な状態となることが懸念されるので伐採を継続的にを行い整備します。 また、植林については、秋に楽しめる木々が少ないため、四季折々の風景が楽しめるような植樹を行い、景色がきれいな作手を目指し観光客を呼び込みます。	
	柱 3 助け合い支え合い、安心して暮らせるまちづくり （安心・安全 防災・防犯）	3 班	防災倉庫の備品整備・補充システムづくり事業	各行政区に設置された防災倉庫は整備されているものの、使用状況が不透明な地区が多く見受けられます。そこで、各行政区が必要な物資リストを明確に把握し、地区ごとの不足分を適切に補充できる仕組みを整備してはどうですか。
防災意識向上事業			被災者の経験談を聞いたり、防災キャンプなどで疑似体験をすることで、地域住民の防災意識を向上させることができます。そこで、地区の代表である区長が主体となって防災意識向上を地域で進めていくことができるような事業を行う。	
防災コミュニティづくり事業			見代地区のように、有事の際に隣近所で共助ができる環境を整えるため、地区ごとの防災計画を作成できるような仕組みが必要である。その一環として、防災計画のひな形を提示し、地域が自主的に計画を作成できるよう支援することで、個人情報に配慮しながら防災計画を作成することが可能になる。地区の代表が集まる区長会で提案してはどうか。	
			また、個人所有の井戸のほとんどが電動であり、停電時に使用できないという問題があるため、手動で汲み上げできる仕組みへの改修を促進するための補助金制度を導入する。	
4 班		子育て支援報奨金事業	作手地区に住む高校生は、バス通学や保護者による送り迎えが必要となり、経済的負担が大きい状況にある。この問題を改善するため、試験的に高校生 1 人あたりへの子育て支援報奨金を支給し、その効果の検証を行う。この取り組みは、移住・定住の促進につながる可能性も期待できる。	
		バス通学補助金事業	作手地区に住む高校生の保護者は、通学にバスや保護者による送り迎え、下宿が必要となり、経済的負担が大きい状況にある。この問題を改善するために、試験的にバスや下宿、自家用車の送迎の一部を助成することで保護者の負担の軽減を図る検証を行う。	
		公共バス利用促進事業	現在、デマンドバス作手線は作手地域内の運航になっている。また S バス作手線は高校生の通学においても、電車とバスの乗り換え時間の調整が悪い時間帯もあり、保護者に負担がかかっている状況がある。これらの課題を改善するため、時間や運行方法の見直しを行い、地域全体の交通の利便性の向上を図る。あわせて観光利用についても検討をしていく。	
柱 4 情報発信（関わる人や訪れる人を増やし、次世代へつなぐまちづくり）		5 班	スタンプラリー地域紹介事業	作手地内のスタンプラリーを実施し、観光客や移住を検討している方々に各地区の良いところだけでなく悪いところについても実際に見てもらい取り組みを提案します。スタンプは施設だけでなく、その地域に詳しい地元の方々にも押しもらえる仕組みを取り入れることで、参加者が地域住民と直接交流することができます。地域の関心を高めることが期待できます。
	地域相談サポート事業		地域の困りごとを気楽に相談しやすくなるように「子ども110番の家」のような札や表示を自宅に設置できるサポート制度を行ってはどうか。このサポート制度があることで地域住民や移住を考えている人、移住してきた人も地域住民に話しかけやすくなるのではないか。	

柱	班	事業（仮名）	事業概要
柱4 情報発信（関わる人や訪れる人を増やし、次世代へつなぐまちづくり）	5班	作手の魅力発信事業	市内外から多くの観光客でにぎわう「つくで手作り村」だが、情報館の存在に気づきにくいという課題があります。この問題を改善するため、情報館の前に立て看板を設置したり、モニターを活用して情報館の存在をアピールし活用する必要と思われます。